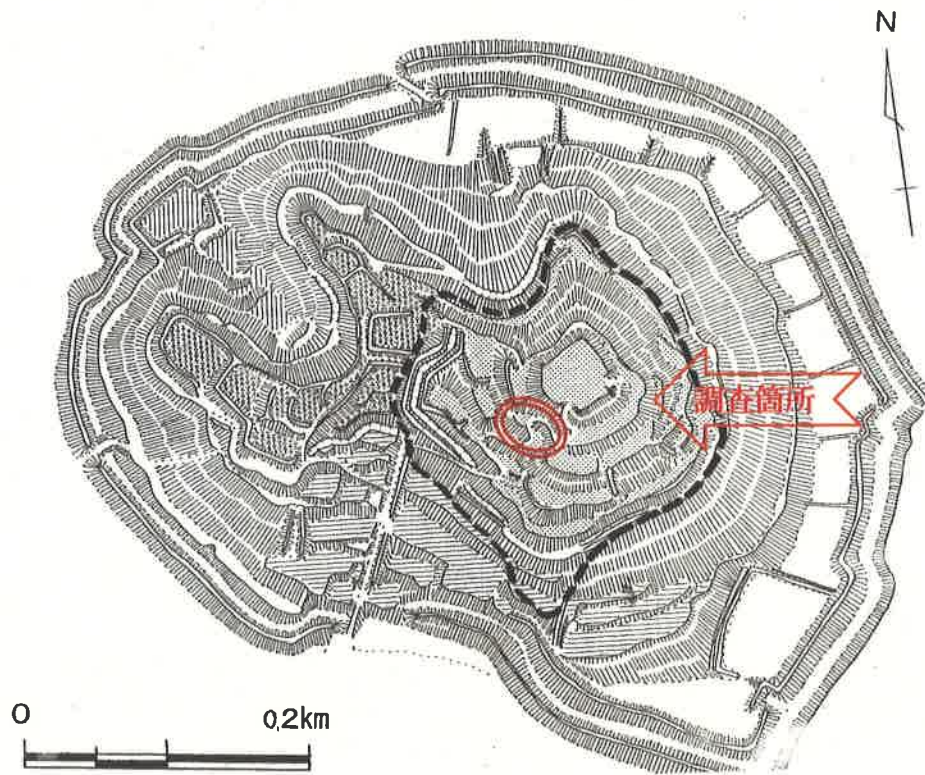


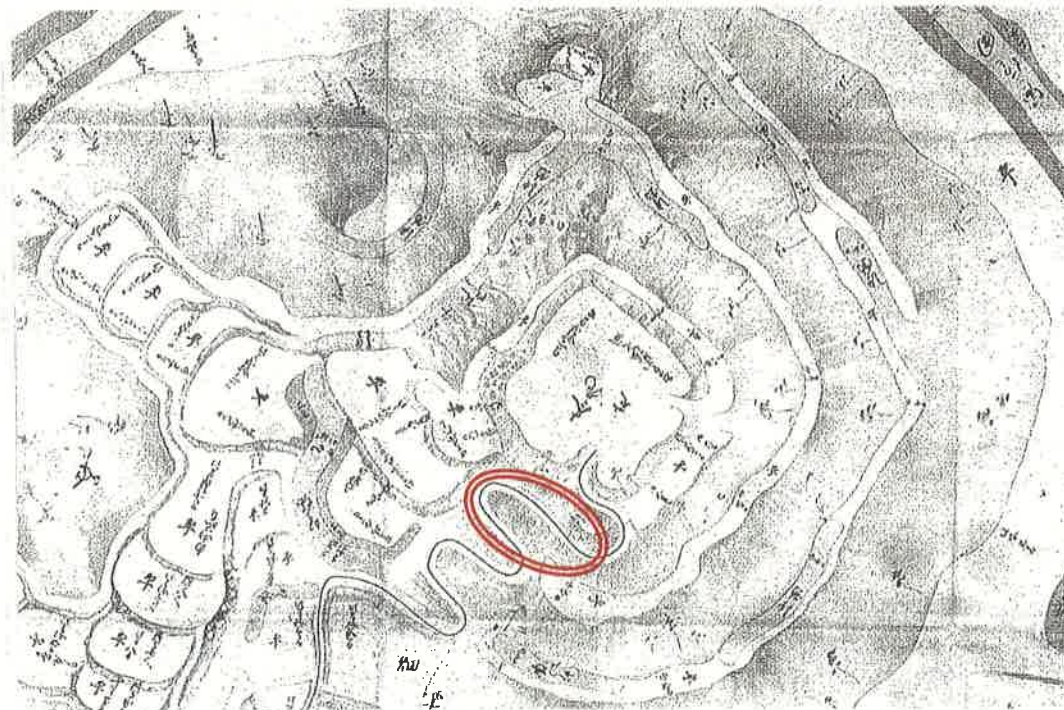
史跡小牧山発掘調査主郭地区第9次発掘調査 現地説明会 資料

平成29年2月11日（土・祝） 11:00～

小牧山城縄張図
（破線の範囲が主郭地区）



春日井郡小牧村古城絵図（部分拡大）
※十七世紀中頃
蓬左文庫蔵



遺跡名

こまきやまじょう
小牧山城（国指定史跡 小牧山）

所在地

愛知県小牧市堀の内一丁目地内

調査理由

史跡整備

調査面積

約370㎡

調査期間

平成28年11月～平成29年3月（予定）

調査主体

小牧市教育委員会



図1 調査位置と見学ルート

1 調査の概要（何ができたのか）

史跡小牧山主郭地区の発掘調査は史跡整備に伴う事前調査のため、4ヵ年の試掘調査と7ヵ年の発掘調査を経て、今年度が13年目です。今回の調査と過去の調査成果から、永禄6年（1563）に織田信長が築いた小牧山城の姿が徐々に明らかとなってきました。

今年度は主郭（本丸）南斜面で調査区（V区）を設定し、調査を行いました。

調査で得られた主な成果は以下のとおりです。

1. 信長築城段階の遺構（図1・2）

大手道の痕跡、石垣、加工された岩盤による壁面を確認しました。

小牧山城の大手道は、小牧山南の麓から中腹まで直線、中腹から山頂までは屈曲を繰り返して主郭に至ります。（P1 縄張図参照）

V区の南東端では、大手道の屈曲部の平坦面（曲輪012）と、その北東角部の山側に石垣（石垣A）と岩盤加工による壁面を確認しました。

壁面は南向きと西向きが存在し、その接点は「入隅」となります（写真1）。山本来の岩盤を垂直・水平に削り、その上端には石垣Aを据えています（写真7）。岩盤による壁面の高さは入隅部付近で3.2mを測ります。

石垣Aは、元位置を留めているものは15石程度ですが、その間にも石が並んでいたと考えられます。推定される石垣A南面の延長は約23mです。一昨年の第7次発掘調査では、主郭をめぐる石垣が3段であることが確認されましたが、今回見つかった石垣Aは、大手道の側面を形成することを意図して築かれたもので、これまで見つかった主郭をめぐる石垣とはその機能・役割は異なります。石垣石材の下には、小さい丸礫・角礫を敷いたものも確認できます（写真6）。

調査区南西部（曲輪011）では、南面の壁面が南に屈曲し、岩盤加工による入隅を形成している状況が確認できました（写真2）。山頂に至る大手道が東（曲輪



写真1 石垣Aと加工岩盤の入隅部

012)から緩やかに登り、この地点で北に屈曲すると考えられます。

曲輪 012 で北に屈曲した大手道は、調査区北東端で確認された岩盤の加工により形成された平坦面に続くと考えられることから、大手道が大きく蛇行して主郭に至る状況を明らかにすることができました。推定される大手道の幅は、調査区南東部(曲輪 012)で約 14m(屈曲部を含む)、調査区南西部(曲輪 011)で約 10.5m、調査区北東部で 7.3mです。

2. 家康改修段階以後の遺構 (図2)

曲輪 011 の谷側端部において、永禄期の面を一部掘削したり埋めたりした天正期の土塁の痕跡を確認しました(写真8・9)。土塁の推定延長は 14.5m、基底の幅は 3, 7m、高さは後に土塁が削られてしまったため、不明です。

また、天正期の土塁が作られたのちに、上方から大量の石垣石材が崩落してきたものをその高まりでせき止めている様子が壁面の観察で確認できました(写真3)。石垣石材が堆積した状況から、崩落が極めて短期間、一時的に起きたことがわかります。

2 まとめ (何が明らかになったのか)

主郭に接する大手道の経路、その側壁に設けられた石垣・岩壁を確認しました。(図3)

山の南麓から続く小牧山城の大手道が主郭に接する部分で築城時の通路の一部を確認しました。通路は鉤の手のように屈曲を繰り返す複雑な作りで、その通路の山側では岩盤を3mもの高さまで壁のように人工的に加工し、石垣と組み合わせている状況が判明しました。調査区南端、曲輪 011 の谷側端部には露頭する石垣B-1、過去の調査で確認した石垣B-2があります(図2・写真4)。小牧山城は、主郭だけではなく、登城者を圧倒するような連続する石垣の重なりをもつ堅固かつ壮大な城郭プランを有していたことが推定できます。

天下統一を睨んだ信長の城づくり、ひいては「信長の夢」をうかがわせる貴重な成果です

調査区西端の地層観察から、小牧山城をめぐる戦国時代から現代までの、あらたな状況が明らかになりました。



写真2 曲輪 011 の入隅部



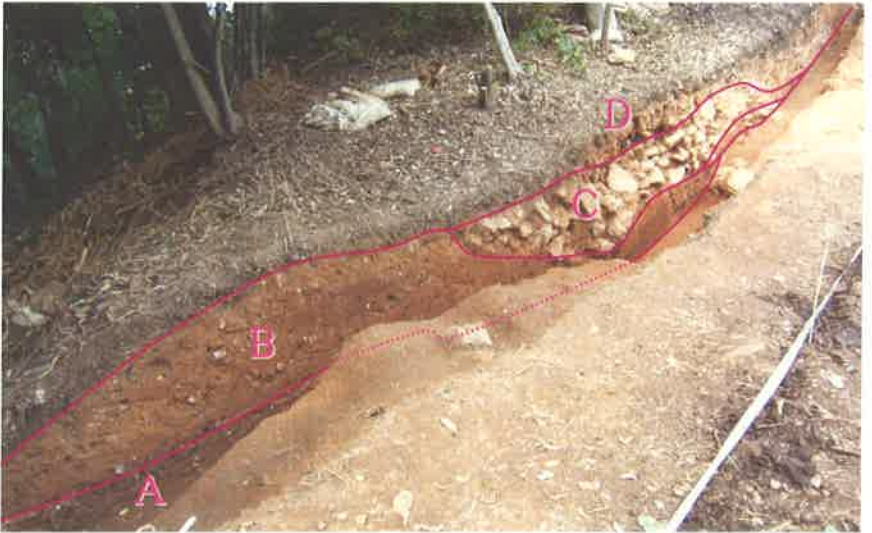
写真3 崩落した石垣石材の堆積状況



写真4 露頭している石垣B-1

調査区西端では、地表面に近い現代から戦国時代までの小牧山の変化が地層により確認することができました(写真5)。

- A: 造成により平坦な曲輪を設けて谷側に石垣をめぐる
- B: 曲輪面を一部掘りくぼめ、曲輪端部に土塁を築く
- C: 上方から大量の石垣石材が転落し、土塁によりせき止められる
- D: それらを覆う土砂が堆積する



これまでの調査成果などを総合して検討すると、

- A=永禄期 《信長の小牧山城》
 - B=天正期 《家康の小牧山城》
 - C=天正期以降
 - D=近現代
- と推定されます。

- ① 天正期には土塁を築くなどの改修が行われたこと
 - ② 小牧・長久手の合戦(天正 12 年)以降に主郭を含む大量の石垣が極めて短期間に崩落していること
- などが推定できます。

写真5 土層の模式図

- A: 永禄期(信長)の小牧山城の面
- B: 天正期(家康)の小牧山城の土塁
- C: 石垣が崩れて転落した石の層
- D: 地表面までの堆積土の層

付表1: 小牧山の歴史

時代	年	できごと
戦国時代	永禄 6年(1563)	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備した。
	10年(1567)	織田信長、稲葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正12年(1584)	小牧・長久手の合戦(羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い) 徳川家康は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
江戸時代	慶長15年(1608)	名古屋城築城開始。小牧山城の石垣を持ち出しか?
		小牧山は尾張藩領となり、家康公ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。
明治時代	明治 2年(1869)	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。
	5年(1872)	県立小牧公園として一般公開される。
	22年(1889)	小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～平成	昭和 2年(1927)	10月26日 国の史跡に指定される。
	5年(1930)	徳川家から小牧町へ小牧山が寄付される。
	22年(1947)	東麓に小牧中学校が建設される。
	43年(1968)	山頂に小牧市歴史館が建設される。
	平成10年(1998)	小牧中学校を史跡外へ移転する。
	15年(2003)	小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。
	16年(2004)	主郭地区試掘調査開始(第1～4次調査)
	20年(2008)	主郭地区発掘調査開始(第1～9次調査)

付表2：織田信長天下統一への過程と城郭

年 代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治 元年（1555）	22 歳	清須城入城	清須城：石垣なし	×
永禄 3年（1560）	27 歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6年（1563）	30 歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城：石垣構築	○
永禄10年（1567）	34 歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め 小牧山城から移る	岐阜城（千畳敷） ：巨石石積	改修
天正 4年（1576）	43 歳	安土城築城開始	安土城：総石垣	○
天正10年（1582）	49 歳	本能寺の変		

国指定 史跡小牧山の整備についてのご意見募集中！

小牧市（教育委員会小牧山課）は、旧本庁舎跡地に土塁や堀、曲輪などの復元をする工事および、小牧山のことをより知っていただくための、新たな情報発信拠点となる（仮称）史跡センターの建設について検討を進めております。
史跡小牧山の整備について、みなさまのご意見をお待ちしております。

旧本庁舎跡地について

旧本庁舎跡地は、現在、土を盛って、安土・桃山時代当時の土塁や堀、曲輪などの復元する基盤整備工事を進めており、平成29年の春には完成する予定です。



▲旧本庁舎跡地史跡整備完成予定鳥瞰図

（仮称）史跡センターについて

（仮称）史跡センターの建設については、小牧山南東の堀の内体育施設を中心とした敷地に建設を予定しています。文化庁など関係機関との協議を行い、平成27年6月に、（仮称）史跡センター整備基本構想を策定しました。基本構想では、史跡センターの基本的なコンセプト・概要を定め、具体的な内容については、現在「基本設計」の中で検討しています。

今後のスケジュールとしては、平成28年度に実施設計を行い、その後、平成29年度に建設工事に着手し、平成30年の開館を目指しています。

【連絡先】小牧市教育委員会 小牧山課 史跡係
〒485-8650 小牧市堀の内三丁目1番地
電話：0568-76-1623 FAX：0568-75-8283 メール：komakiyama@city.komaki.lg.jp
（仮称）史跡センター基本構想についての詳細は、市ホームページ（下記URL）をご参照ください。

URL <http://www.city.komaki.aichi.jp/bunkazai/komakiyama/013940.html>

..... 確認した石垣ライン（推定含む）
[赤枠] 今年度調査区
→ 想定される大手道ルート 今回の調査で判明した大手道ルート

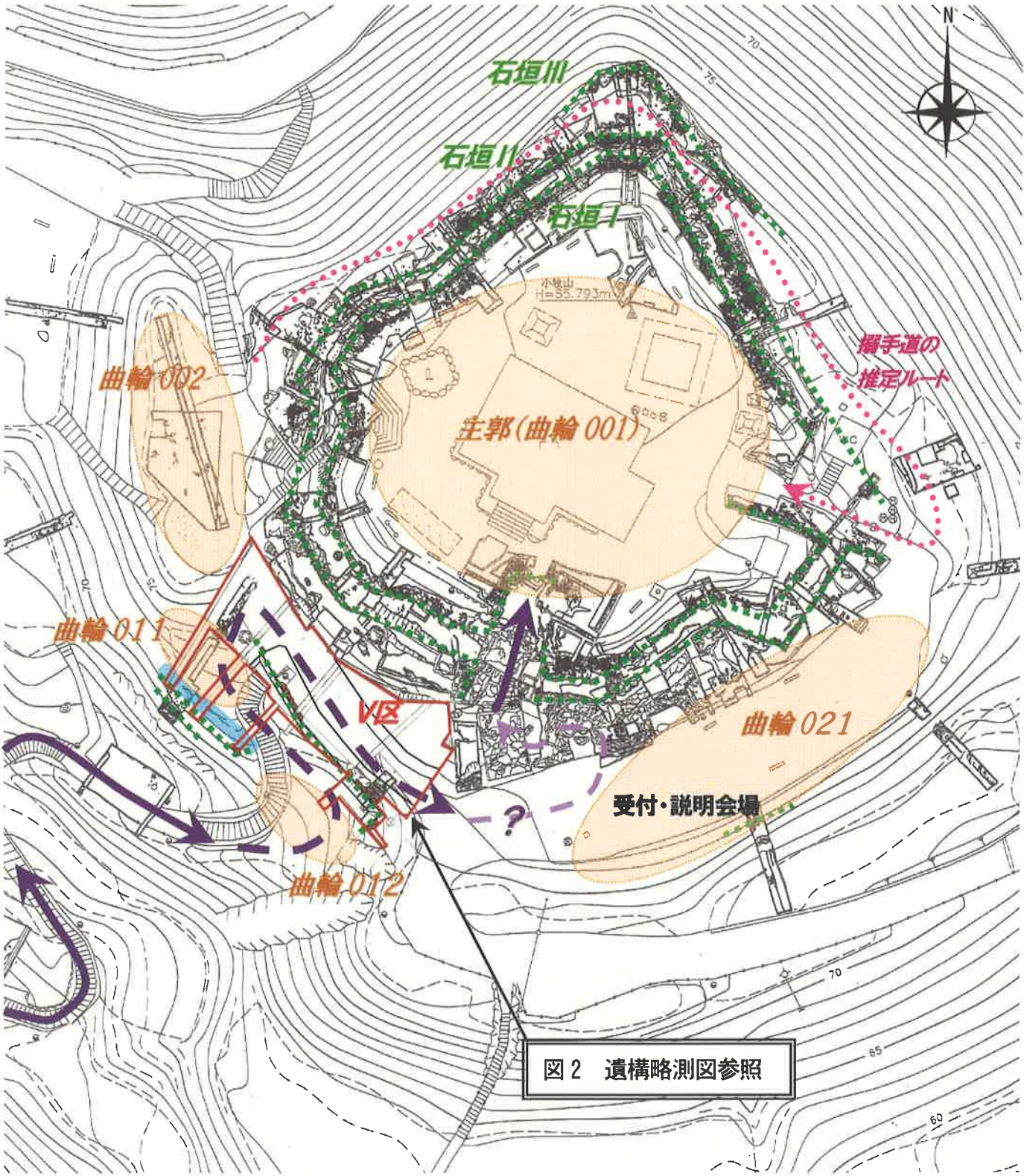


図2 遺構略測図参照

図1 小牧山城主郭地区 石垣模式図 (S=1:300)

石垣推定ライン
岩盤の加工
大手道の推定ルート

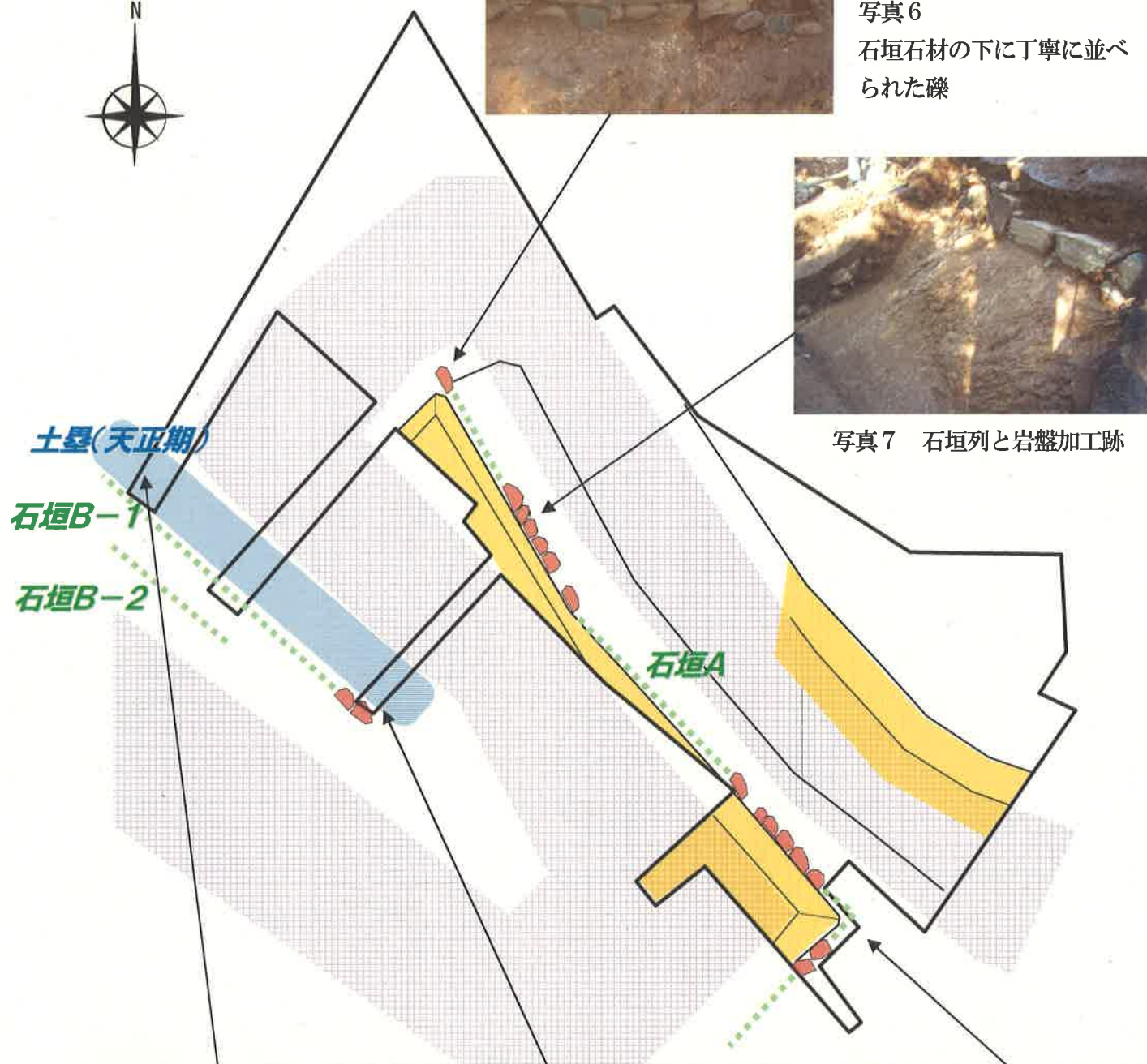


写真6
石垣石材の下に丁寧に並べられた礫



写真7 石垣列と岩盤加工跡



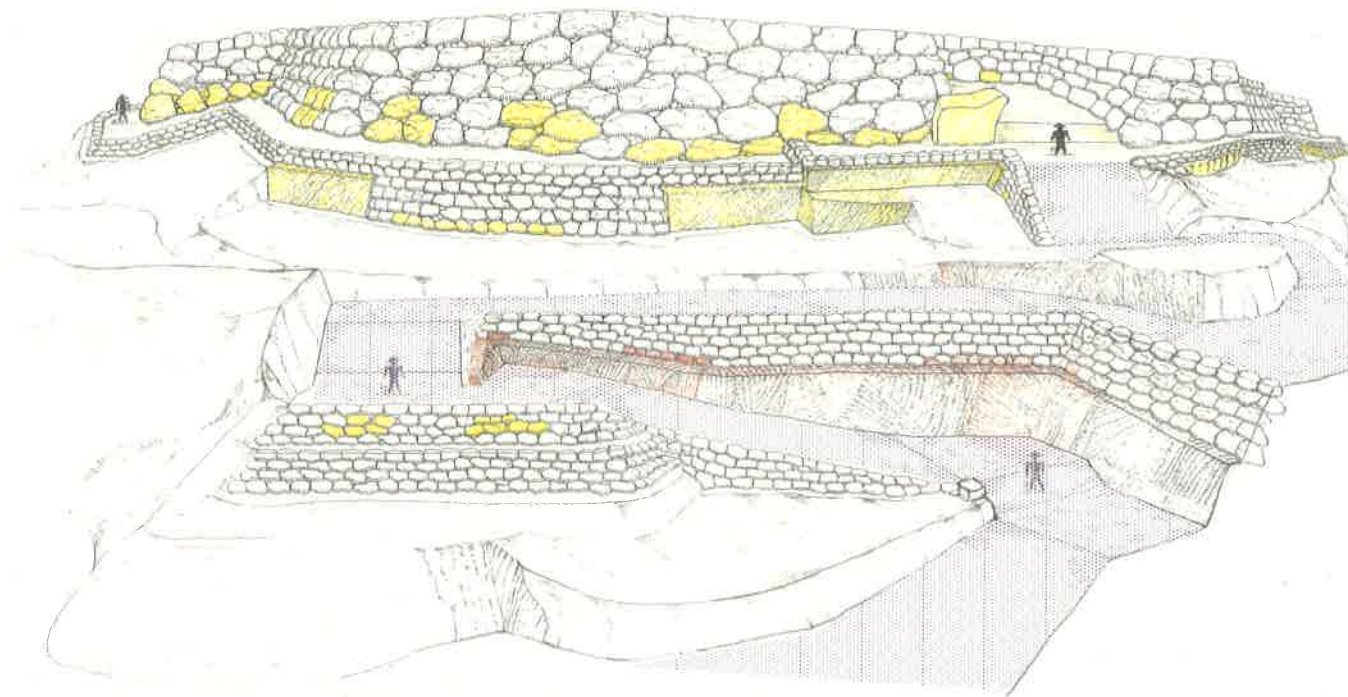
写真8・9 土塁の痕跡を示す土層



図2 V区 遺構略測図 (S=1:150)



写真10 石垣Aと岩盤の入隅部



黄色：これまでの調査で確認した石垣・地形
赤色：今回の調査で確認した石垣・地形
紫色：大手道の推定ルート

図3 V区および小牧山城主郭地区南斜面 石垣想定復元イメージ図 (その1)



写真11 岩盤と石垣が併用される事例 (姫路城西の丸)